

2.5 生態系の多様性の観点からの重要地域

生態系の多様性の観点からは、全国レベルにおいては、以下に示す自然林、自然草原、沿岸地域の干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸、そしてオオタカやサシバの生息情報がある里地里山を抽出した。

(1) 自然林、自然草原

第5回自然環境保全基礎調査（植生調査）における植生自然度9（自然林）、10（自然草原）の地域を重要地域と考えた。第5回自然環境保全基礎調査（1998年）によれば、自然林は国土の17.9%、自然草原は国土の1.1%である。自然林、自然草原は、北海道に集中し低海拔高のところでも残されているが、東日本では大半は高海拔地域にこれらが残されている。中部以西にはほとんど残されていない。植生自然度は自然の価値の度合いを必ずしも示すものではないが、自然度の高い植生自然度9（自然林）、10（自然草原）の植生は、他の植生自然度の地域に比べ、保全がより優先される地域と考えられる。

(2) 干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林及び自然海岸

干潟、藻場、造礁サンゴ生息域及びマングローブ林は、四方を海に囲まれたわが国における特徴的な生態系であり、陸域から海域への移行帯（エコトーン）を形成し、生物多様性保全上も重要な地域と位置づけられる。しかし、特に戦後、沿岸地域において開発が進み、埋め立て等により、その面積が大きく減少した。

干潟については第5回自然環境保全基礎調査における全国の干潟（浅海域内外）面積の合計は49,380ha（第5回未調査の兵庫県、徳島県を含まない）であった。全国の干潟面積の推移について見ると、1945年から第2回（1978年）までの期間に82,621haから53,856haへと約35%減少したと考えられている。さらに第2回から第4回（1989～1991年）までに3,857haが消滅している。藻場については、第4回調査における全国の藻場面積の合計は201,212haであったが、第2回調査以降6,403haの藻場が消滅した。造礁サンゴ生息域については、第4回調査において確認されたトカラ列島小宝島以南及び小笠原群島海域における地形としての造礁サンゴ生息域の総面積は96,479haであり、第2回調査時以降1,512haの造礁サンゴ生息域が消滅した。南西諸島の沿岸地域に典型的なマングローブ林についても減少が知られている。

また、第5回自然環境保全基礎調査によれば、全国の海岸の総延長は32,799.02km、そのうち本土域は19,297.54km（58.84%）、島嶼域は13,501.48km（41.16%）である。自然海岸は全国で見ると17,413.94kmで全体の53.09%を占める。ただし、本土域に限れば全体の42.27%で5割を切っており、島嶼域の自然海岸の割合68.57%を大きく下回る。自然海岸には砂浜海岸、磯浜海岸、泥浜海岸等が含まれており、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林と併せて、沿岸域の中でも生物多様性の保全上重要な場所といえる。

以上のことから、現存する自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林及び自然海岸を、希少な生態系と考え、生態系の多様性の観点からの重要地域とした。

なお、干潟、藻場及び造礁サンゴ生息域について、本構想では、第5回自然環境保全基礎調査（海辺調査）よりも広い範囲を対象に調査が行われている第4回自然環境保全基礎

調査（海域生物調査）による調査結果を利用した。

(3) 里地里山

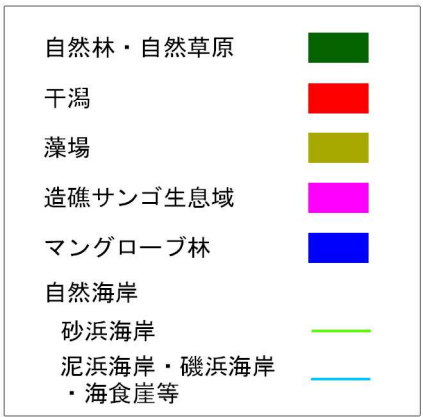
里地里山は、農林業など人と自然の長年の相互作用を通じて形成された二次的自然環境であり、この特有の環境に対応した動植物の生息・生育空間として、わが国の生物多様性保全上重要な役割を担っている。環境省「日本の里地里山の調査・分析について（中間報告）」（2002年）では、絶滅危惧種が集中して生息生育する地域（RDB種集中地域）の多くが里地里山であることが明らかにされ、希少な種の生息・生育地としても重要である。

しかし、過疎化や高齢化などにより人為の働きかけが減少し、生物多様性の劣化が著しく、保全・再生が急務となっている。

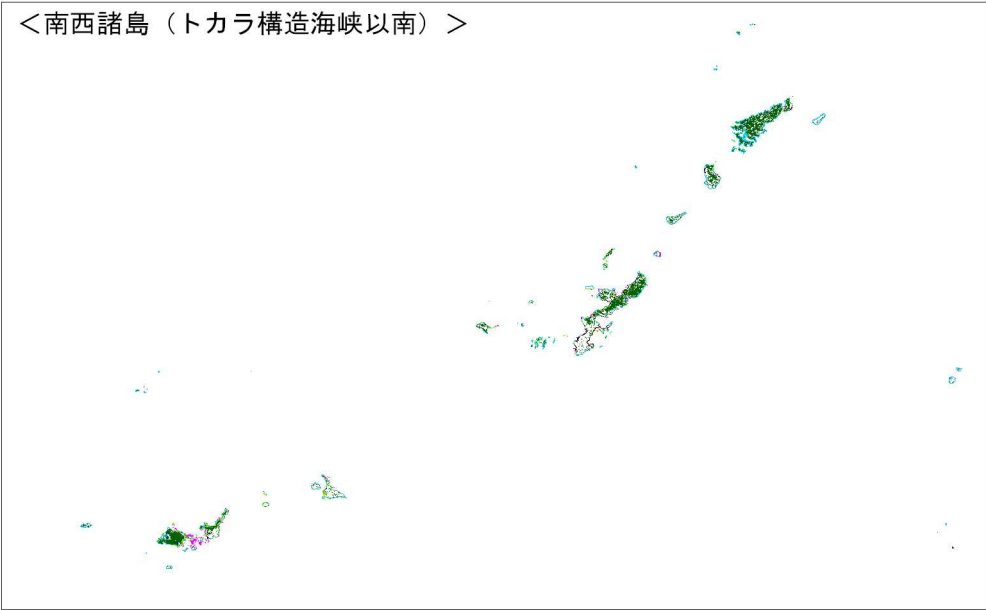
本構想においては、里地里山を特徴づけるオオタカ、サシバ(猛禽類)の生息情報のある里地里山を、生態系の多様性の観点から保全が求められる里地里山とした。

なお、里地里山の定義は「平成14年度 里地自然の保全方策策定調査報告書」（環境省自然環境局、平成15年3月）を参照した。

(注)本構想は、全国レベルでの検討であるため、奥山自然地域から沿岸域・海洋域・島嶼地域、また北海道の亜寒帯から沖縄の亜熱帯までの国土全体を見渡し、希少な生態系として、自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸を取りあげた。里地里山についても、生態系における上位性が高く、分布情報が全国レベルである程度均一に得られるオオタカとサシバに着目して検討した。広域圏、都道府県、市町村レベルのスケールで掘り下げて検討する場合、上記視点に加え、検討のスケールに応じ、より詳細な分布情報にもとづく分析・検討が必要となる。例えば、里地里山について検討する場合、カエルやサンショウウオ、またカタクリなどの植物も含め、スケールに応じた適切な種に着目する必要がある。



<南西諸島（トカラ構造海峡以南）>



<小笠原諸島・火山列島>

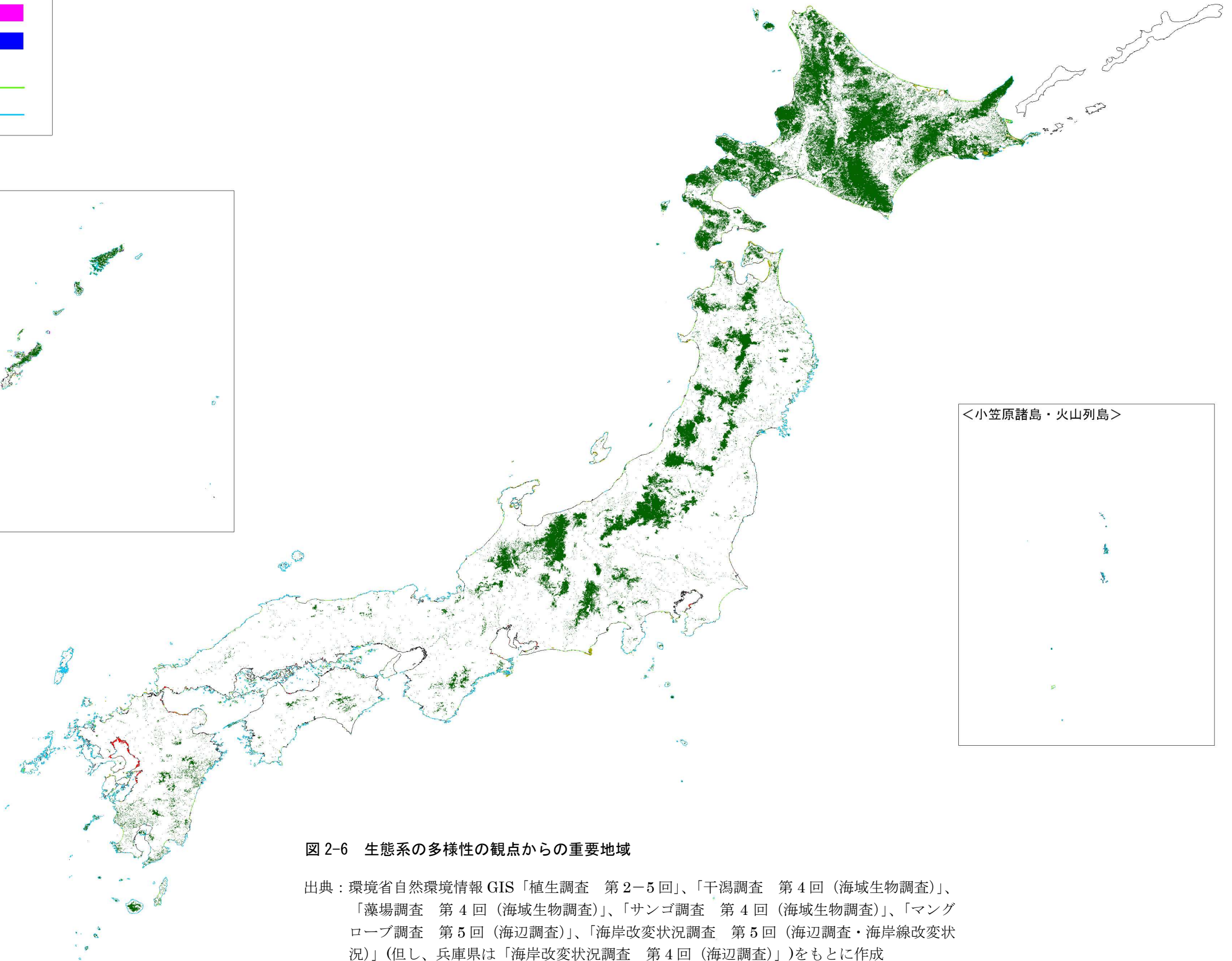
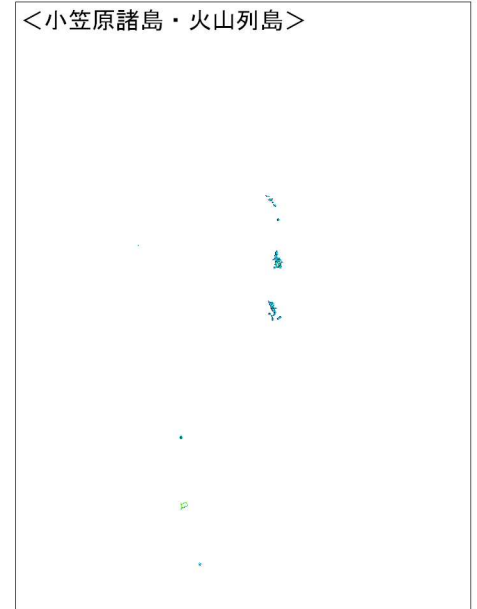










図 2-6 生態系の多様性の観点からの重要地域

出典：環境省自然環境情報 GIS「植生調査 第 2-5 回」、「干潟調査 第 4 回（海域生物調査）」、「藻場調査 第 4 回（海域生物調査）」、「サンゴ調査 第 4 回（海域生物調査）」、「マングローブ調査 第 5 回（海辺調査）」、「海岸改変状況調査 第 5 回（海辺調査・海岸線改変状況）」（但し、兵庫県は「海岸改変状況調査 第 4 回（海辺調査）」）をもとに作成



自然林・自然草原	
干潟	
藻場	
造礁サンゴ生息域	
マングローブ林	
自然海岸	
砂浜海岸	
泥浜海岸・磯浜海岸 ・海食崖等	

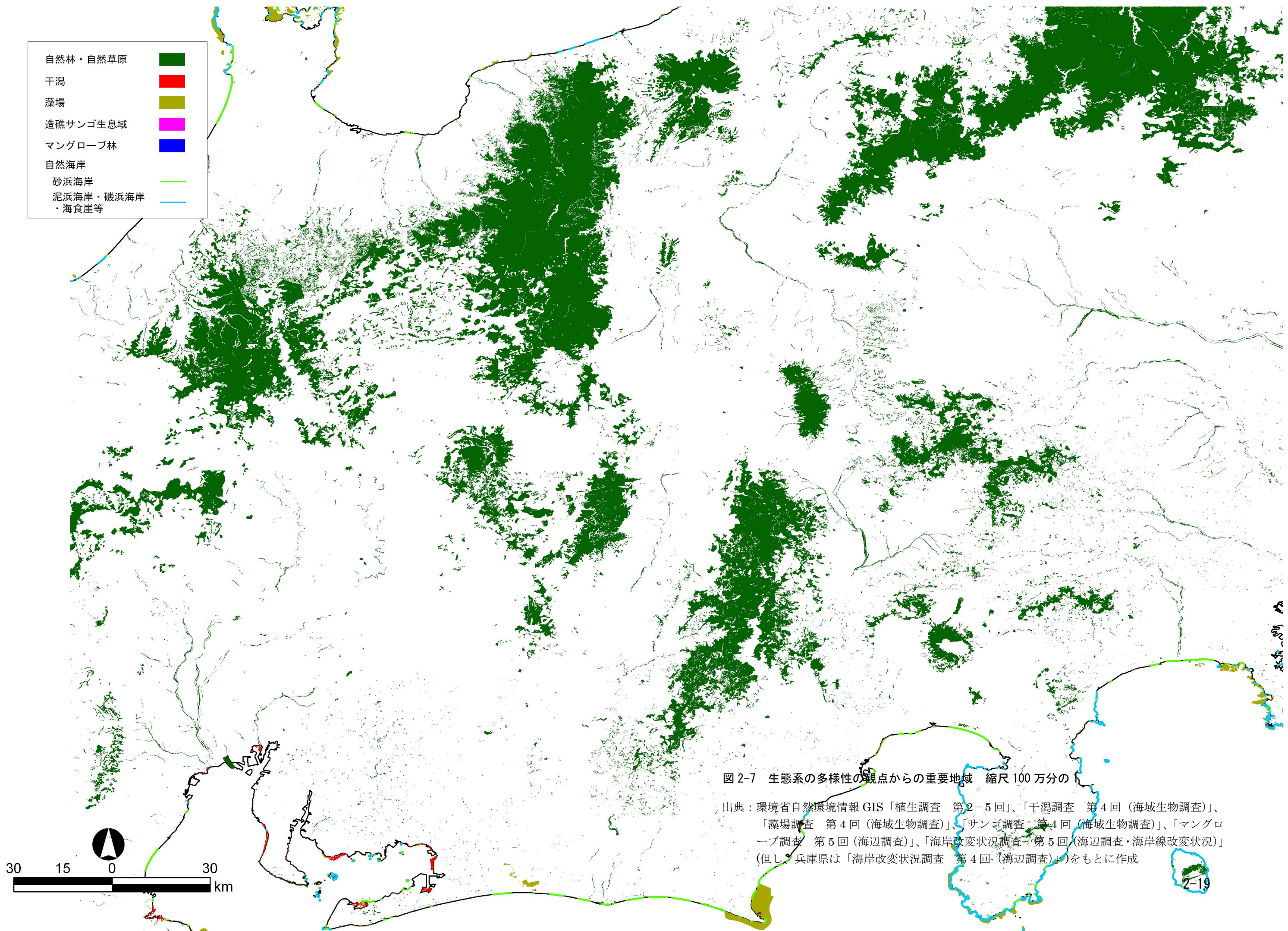


図 2-7 生態系の多様性の観点からの重要地域 縮尺 100 万分の

出典：環境省自然環境情報 GIS「植生調査 第 2-5 回」、「干潟調査 第 4 回（海域生物調査）」、「藻場調査 第 4 回（海域生物調査）」、「サンゴ調査 第 4 回（海域生物調査）」、「マングローブ調査 第 5 回（海辺調査）」、「海岸改変状況調査 第 5 回（海辺調査・海岸線改変状況）」（但し、兵庫県は「海岸改変状況調査 第 4 回（海辺調査）」）をもとに作成

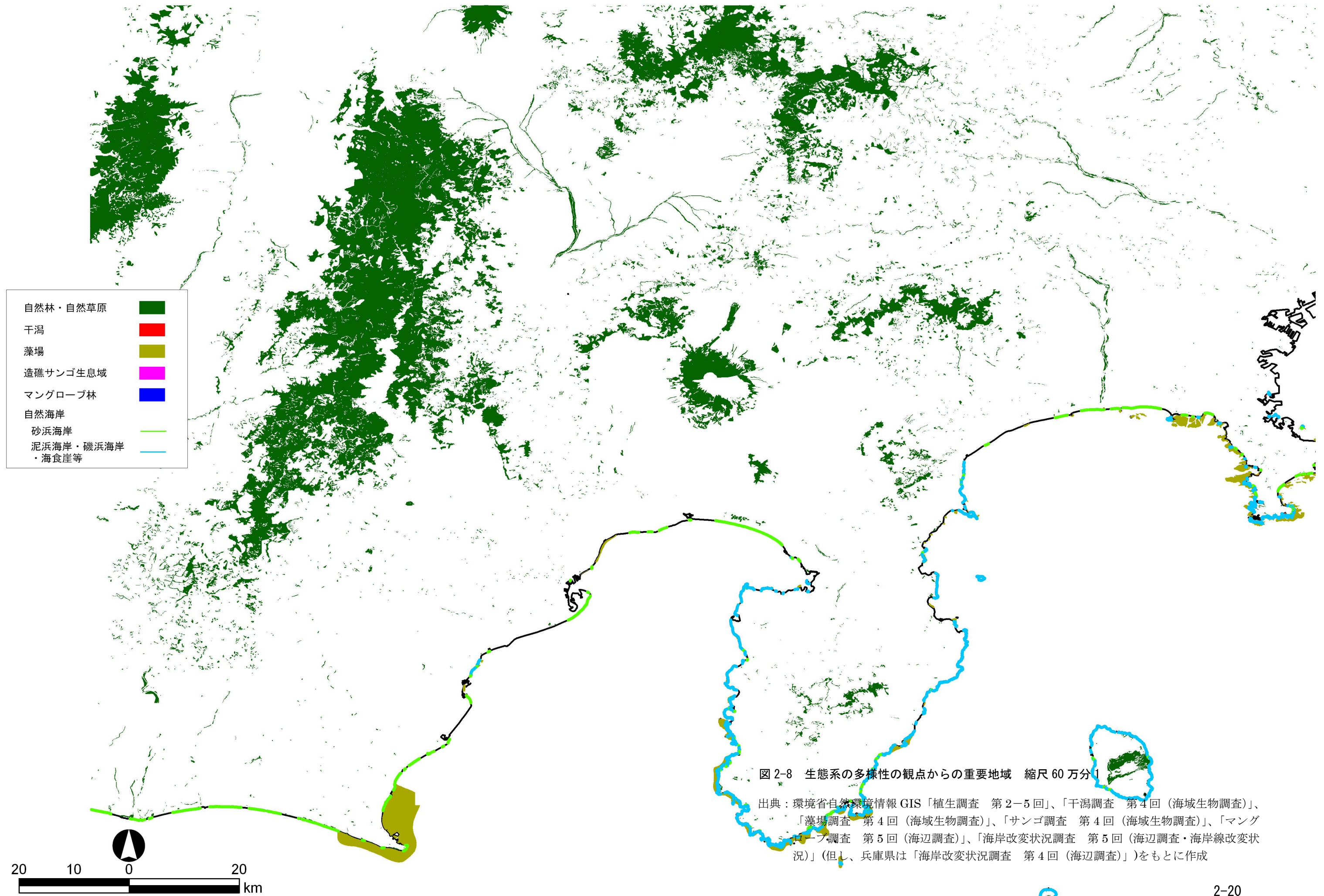
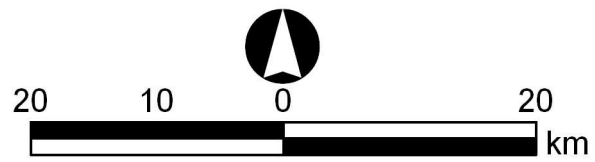


図 2-8 生態系の多様性の観点からの重要地域 縮尺 60 万分 1

出典：環境省自然環境情報 GIS「植生調査 第 2-5 回」、「干潟調査 第 4 回（海域生物調査）」、「藻場調査 第 4 回（海域生物調査）」、「サンゴ調査 第 4 回（海域生物調査）」、「マングローブ調査 第 5 回（海辺調査）」、「海岸改変状況調査 第 5 回（海辺調査・海岸線改変状況）」（但し、兵庫県は「海岸改変状況調査 第 4 回（海辺調査）」）をもとに作成



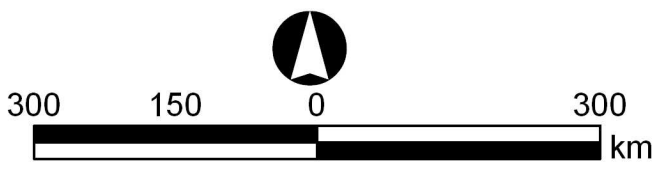
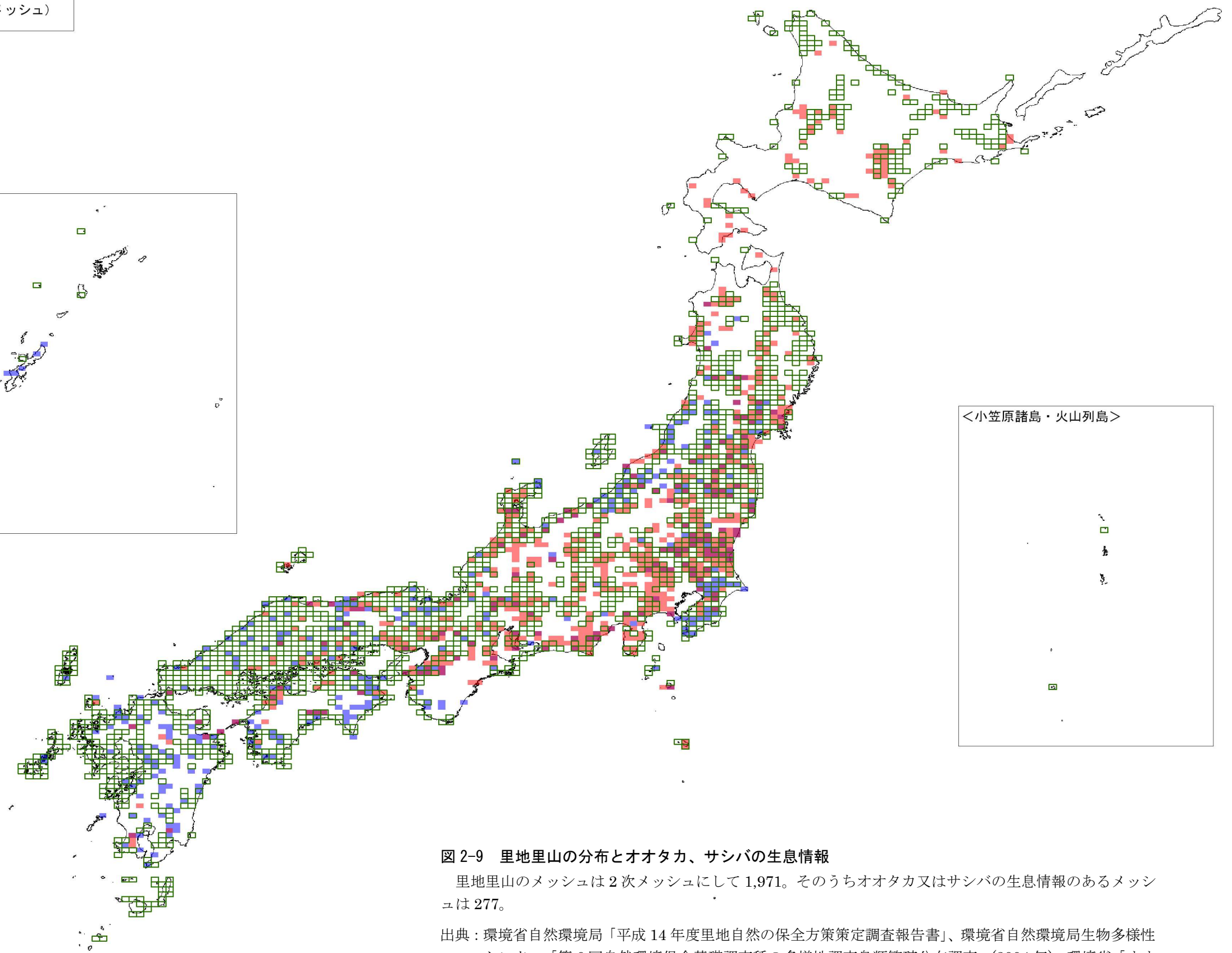
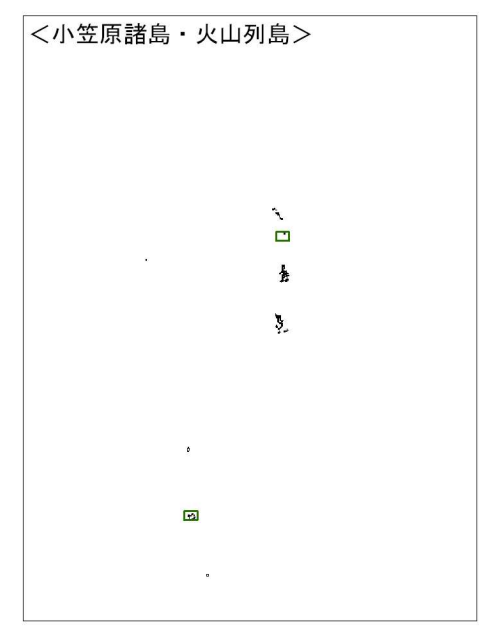
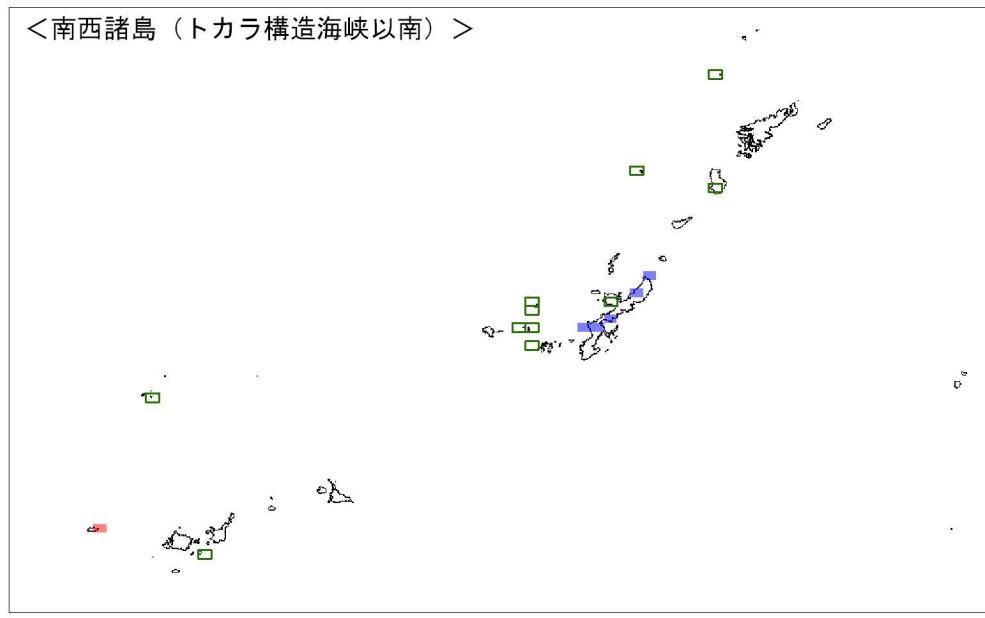
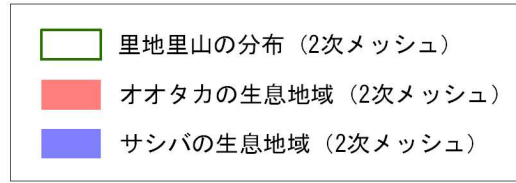


図 2-9 里地里山の分布とオオタカ、サシバの生息情報

里地里山のメッシュは2次メッシュにして1,971。そのうちオオタカ又はサシバの生息情報のあるメッシュは277。

出典：環境省自然環境局「平成14年度里地自然の保全方策策定調査報告書」、環境省自然環境局生物多様性センター「第6回自然環境保全基礎調査種の多様性調査鳥類繁殖分布調査」(2004年)、環境省「オオタカ保護指針策定調査」(2005年)をもとに作成。